

14 ペットとの生活

指針
No.29

ペットとの生活

犬や猫などのペットを飼う場合は、飼い主としての責任を十分に果たしましょう。

ペットを飼う時の心構え

- ① 動物の世話は、動物の一生にわたり毎日食事を与え、運動や健康管理を行うなど、一家に子供が一人増えたのと同様に愛情をもって接することが大切です。
- ② 飼っている動物が人を傷つけたり、他人の庭を荒らしたり糞尿で汚したりしたときは、たとえ知らない間に起こっていても飼い主に責任があります。
- ③ 予定外に動物の子供が生まれ、もらい手が見つからず途方にくれるより、あらかじめ不妊・去勢手術をしておいた方がよいでしょう。特に屋外に自由に出ることができる飼い方の猫には必要です。また、飼っている動物を捨てると、法律で罰せられます。



ペットに留守番をさせるときは

- ① 隣の窓やバルコニーが近いというのは住宅密集地や集合住宅では避けられない条件です。動物たちに日頃から物音に慣れさせておくのも大切ですが、留守番をさせるときには窓を閉めることも大切です。音や臭いも、その多くが窓から出入りします。
- ② 不在時にペットが騒いでしまっても被害が少なくなるよう、隣の住戸との境の壁に本棚を置いたり、窓にはインナーサッシで二重にするなどの遮音を行いましょう。

人と動物との共通感染症

人にも動物にもうつる病気を「人と動物との共通感染症」（又は動物由来感染症）といいます。特に注意しなければならない主な感染症は次のとおりです。

病名	関係する主な動物				動物の主な症状	主な感染経路 (感染動物から人へ)	人の主な症状
	犬	猫	鳥	その他			
サルモネラ症	●	●	●	●	多くは無症状	糞中の病原体が口の中へ入る (食品等を経由)	腸炎(食中毒)
トキソプラズマ症		●		●	肺炎、脳炎	糞中の病原体が口の中へ入る	まれに流産、胎児に先天性障害
オウム病			●		下痢、元気消失	糞中の病原体の吸入等	カゼに似た症状
かいせん	●	●			皮膚の強いかゆみ、 脱毛	感染動物との接触	皮膚の強いかゆみ、脱毛
レプトスピラ病	●			●	腎炎	感染動物の尿や汚染した水などに接触	発熱、肝臓や腎臓の障害
パストツレラ症	●	●			多くは無症状	かみ傷、引っかき傷による	傷口が腫れて痛む
皮膚糸状菌症	●	●	●	●	脱毛、フケ等	感染動物との接触	脱毛等の皮膚障害、かゆみを伴う
回虫幼虫移行症	●	●			食欲不振、下痢、 おう吐	糞中の病原体が口の中へ入る (食品等を経由)	幼児で肝臓、脳、目等に障害
狂犬病	●	●	●	●	狂そうまたは麻ひ、 昏睡して死亡	かみ傷	神経症状、発症した場合、昏睡死亡

(出典：東京都福祉保健局「人と動物との共通感染症」より作成)

チェックポイント
29-1

ペットのしつけや糞の始末など、正しい飼い方をしていますか。

- ① 鳴き声などで迷惑をかけないように、日頃からきちんとしつけましょう。そのためには、「ほめる」を繰り返し、しつけを根気よく行っていくことが必要です。
- ② 犬を放し飼いにしてはいけません。東京都では、条例により犬をつないで飼うことを義務付けています。
- ③ 犬を散歩させるときは、つないで行いましょう。また、糞の後始末をきちんとしましょう。適当に切ったトイレトーパーを糞にかぶせ、ビニール袋で包み込み、袋を反転させれば手を汚さずに処理できます。
- ④ 犬、猫、ハムスター、小鳥などの動物の体毛（羽毛）やフケ、糞、唾液は、ぜん息などのアレルギー症状を引き起こす原因物質になります。また、アレルギー疾患のある人は、動物に直接接触しなくても、飼育している室内に入るだけでアレルギー症状を起こすことがあるので、周囲の人に対する配慮が必要です。



指針No.33参照

集合住宅でペットを飼うときは

管理規約や使用規則、契約条件をみてペットが飼えるかどうか確認しましょう。

- ① ベランダでの食事、トイレ、ブラシかけは、臭気や毛が飛散するなど、近隣への迷惑になるので、日常の管理は室内で行うようにしましょう。
- ② エレベーターや共有の場所では、動物を抱きかかえるなど、周囲の人に対する配慮も大切です。

※東京都では、「集合住宅における動物飼養モデル規程」（平成6年）を作成しています。マンションなどの集合住宅で動物を飼う際の規程を設ける場合等は参考にしてください。

チェックポイント
29-2

ペットの病気が人にうつらないよう、飼い方に注意していますか。

ペットが人と動物との共通感染症であるサルモネラ症、トキソプラズマ症、オウム病、かいせんなどにかかっている場合、次のことに注意していれば人にうつる心配はありません。また、ペットが病気になったときは獣医師に相談し、根気と愛情を持って治療しましょう。

- ① エサ、水等は新鮮なものを与え、糞尿などの汚物はすみやかに処理しましょう。
- ② ペットの体や小屋等は、常に清潔にしましょう。
- ③ エサを口移しで与えるなど、動物から感染する可能性の高い接触は避けましょう。
- ④ ペットを触った後や糞の始末等の世話をした後は、必ず石けんで手をよく洗いましょう。

